

九州生乳販連会報



TOPICS

令和6年度加工原料乳生産者補給金等に係る交付対象数量について	1
酪農情勢報告	2
令和6年度乳価対策資金単価について	3
令和6年度乳用牛繁殖改善事業について	3
令和6年度事業計画について	4
国産チーズ生産奨励事業について	8
令和6年能登半島地震に係る義援金のご報告	8
生乳需給安定化対策について	9
令和5年度販売状況について	10
令和5年度会員別生乳受託販売数量	11
令和5年度月別受託生乳検査成績	11
酪農理解醸成・消費拡大対策事業 お知らせとご報告	12
暑熱対策は早めに!!	16

令和6年度加工原料乳生産者補給金等に係る交付対象数量について

農林水産省は4月3日、本会を含む63事業者に対し、表1のとおり令和6年度加工原料乳生産者補給金等に係る交付対象数量を公表しました。全事業者の計画数量合計が総交付対象数量325万トンを上回ったため、一律に削減する対応が取られており、本会が計画した加工原料乳の数量83,615トンに対しても約8.4%削減の調整がなされた結果、交付対象数量は76,537.3トンとなりました。なお、本会より提出した年間販売計画は表2のとおりです。

また、総交付対象数量を超えて流通する加工原料乳については、脱脂粉乳・バターの需要の不均衡改善や集送乳経費の合理化に対する取組を支援する「バター・脱脂粉乳需給不均衡及び生乳流通改善緊急事業」が措置されています。

表1. 令和6年度加工原料乳生産者補給金等の交付対象数量
(単位: トン)

事業者名	交付対象数量
ホクレン	2,930,542.5
サツラク	4,393.8
カネ力食品	814.7
富士乳業	11,373.3
MMJ	1,308.1
東北生乳販連	64,074.9
関東生乳販連	122,911.0
北陸酪連	2,196.3
東海酪連	13,449.4
近畿生乳販連	362.8
中国生乳販連	14,628.7
四国生乳販連	2,799.9
九州生乳販連	76,537.3
沖縄県酪	62.3
第1号対象事業者(14事業者)	3,245,455.0
第2号対象事業者(22事業者)	2,931.2
第3号対象事業者(30事業者)	1,613.8
合計(63事業者)	3,250,000.0

* 事業者名太字は指定事業者
* 合計63事業者は、第2号・第3号対象事業者の重複を除く

表2. 令和6年度年間販売計画

用途		R6年度 年間販売計画 (単位: トン)
特定乳製品向け (加工原料乳)	公共除く 公共	83,615 1,189
	合計	84,804
	脱脂粉乳・バター 等向け	公共除く 公共 合計 54,596 899 55,495
チーズ向け	公共除く 公共	1,139 0
	合計	1,139
	クリーム等向け	公共除く 公共 合計 27,880 289 28,169
飲用牛乳等向け	公共除く 公共	386,410 2,634
	合計	389,043
発酵乳等向け	公共除く 公共	84,728 0
	合計	84,728
公共除く計		554,753
公共計		3,822
総計		558,575

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和6年3月の生乳出荷戸数は1,045戸で、令和5年3月時点の1,107戸と比較すると62戸の減少となりました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

1～3月の乳用種雌牛飼養頭数は、23カ月令以下・24カ月令以上・総頭数ともに前年を下回った推移となりました。なお、23カ月令以下の頭数は1割以上減と減少幅が大きい一方、24カ月令以上の頭数は減少幅が縮小傾向にあります（表1）。

表1. 乳用種雌牛飼養頭数 (単位: 頭)

	1月	2月	3月
23カ月令以下	25,942	25,825	25,845
	増減	-3,104	-3,196
	前年比	89.3%	89.0%
24カ月令以上	71,870	71,818	71,809
	増減	-810	-761
	前年比	98.9%	99.0%
総頭数	97,812	97,643	97,654
	増減	-3,914	-3,957
	前年比	96.2%	96.1%

注: Jミルクホームページより

12～2月の出生総頭数は、2月は前年を上回ったものの12・1月は前年を下回り、期間合計でも前年を下回りました。また、その内訳として、乳用種雌、乳用種雄、交雑種ともに前年を下回りました（表2）。

表2. 出生頭数 (単位: 頭)

	12月	1月	2月	累計(12-2月)
総頭数	4,097	3,822	3,314	11,233
	増減	-201	-179	45
	前年比	95.3%	95.5%	101.4%
うち、乳用種雌	903	1,018	835	2,756
	増減	-171	-39	21
	前年比	84.1%	96.3%	102.6%
うち、乳用種雄	422	356	309	1,087
	増減	-32	-51	-61
	前年比	93.0%	87.5%	83.5%
うち、交雑種	2,033	1,709	1,473	5,215
	増減	-13	-140	21
	前年比	99.4%	92.4%	101.4%

注: Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

1～3月の生乳受託販売数量は、24カ月令以上の乳用種雌牛飼養頭数の回復もあって前年からの減少幅は

縮小傾向にあり、2月は閏年だった影響もあって前年を上回りました。北海道および全国では、2・3月と前年を上回った推移となっています。（表3）。

表3. 生乳受託乳量 (単位: t, %)

	1月	2月	3月	累計(1-3月)
九州	47,201	45,860	50,211	143,272
	前年比	98.2%	102.5%	98.5%
都府県	248,751	239,685	261,585	750,021
	前年比	97.6%	102.3%	98.7%
北海道	330,700	313,948	340,129	984,777
	前年比	99.5%	104.4%	101.3%
全国	579,451	553,633	601,714	1,734,799
	前年比	98.7%	103.5%	100.1%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績 (速報) より

注: 公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

昨年度から今年度にかけて複数回にわたり行われている乳価改定に伴う牛乳・乳製品の値上げの影響により、需要の落ち込みが顕著になっています。1～3月においては、飲用向け、クリーム等向けが前年を下回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回りました。

全国が生乳販売状況も、九州同様に牛乳・乳製品の値上げの影響を受けて需要の減少が見られており、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回っています（表4）。

表4. 用途別販売数量 (単位: t, %)

	用途	1月	2月	3月	累計(1-3月)
九州	飲用 (前年比)	31,532 97.1%	32,052 101.6%	30,831 92.9%	94,415 97.1%
	はっ酵乳 (前年比)	6,553 99.8%	6,449 104.9%	7,097 100.3%	20,100 101.6%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	6,866 102.0%	5,338 107.3%	9,701 120.9%	21,905 111.0%
	生クリーム (前年比)	2,157 97.9%	1,929 97.9%	2,487 95.6%	6,573 97.0%
	チーズ (前年比)	93 109.2%	93 99.0%	94 96.9%	280 101.4%
全国	飲用 (前年比)	241,004 97.3%	233,378 100.3%	232,004 95.3%	706,386 97.6%
	はっ酵乳 (前年比)	33,247 94.8%	32,170 101.4%	35,516 96.1%	100,932 97.3%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	163,944 100.2%	152,197 107.8%	186,091 109.9%	502,232 105.9%
	生クリーム (前年比)	104,397 102.1%	102,165 106.0%	110,120 97.8%	316,682 101.8%
	チーズ (前年比)	36,859 95.6%	33,724 102.5%	37,983 97.9%	108,566 98.5%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績 (速報) より

4. 今後の生乳需給について

数回にわたり行われている乳価改定に伴う牛乳・乳製品の値上げにより需要の減少が顕著になっており、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回る状況が続いています。また、脱脂粉乳の需要は低迷が続いており、全国の生産者・乳業者が協調して実施している在庫削減対策により在庫水準は低く抑えられているものの、今後の積み増しを避けるため、在庫削減対策は今年度も継

続して実施することとなっています。

止まらない円安の影響もあり、牛乳・乳製品のみならずあらゆるものの価格が高騰している中、酪農の現状・価値を伝えていく酪農理解醸成活動、需要の維持・拡大に向けた牛乳消費拡大活動が今まで以上に大事になってきています。本会としても、酪農環境の改善に向け、できる限りの施策を検討・実施し、需要の回復へ積極的に取り組んでまいります。

令和6年度乳価対策資金単価について

九州酪農民の経営安定・向上に資するための事業・拠出・対策等を行い、再生産可能な生産者乳価を確保するための資金として、「生産者乳価対策資金」の拠出をいただいております。

令和6年度は、全国的に生乳生産が前年を上回る一方、飲用需要が低迷し、脱脂粉乳・バター等向けが増加するとの見通しに加え、脱脂粉乳の需要が低調であることから、令和6年度末の在庫量は8万tを超える見込みとなっています。こうした中、(一社)中央酪農会議は令和6年度生乳需給安定化対策において乳製品在庫対策の継続を決定した一方、令和5年度で実施していた加工リスク平準化緊急対策と乳製品隔離事業は実施しないことを決定しました。これらを踏まえ、令和6年度乳価対策資金の拠出単価を以下のとおりといたしましたので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

拠出単価について

令和5年度	0.7 円 /kg		令和6年度	0.6 円 /kg
-------	-----------	--	-------	-----------

令和6年度乳用牛繁殖改善事業について

1. 内容

本事業は、PAGs 検査を実施することで繁殖改善に取り組む生産者に助成を行う事業です。

2. 助成の対象となる期間

令和6年4月1日～9月30日を上期、令和6年10月1日～令和7年3月31日を下期とし、各期間中の検査実施分を対象とします。

3. 対象者

会員を通じて本会に生乳の販売を委託し、2で定める各期の期末まで酪農経営を継続した生産者であって、本会検査所および会員施設に PAGs 検査を依頼した生産者が対象です。

4. 助成単価 1 検体あたりの助成単価は以下の通りです。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
300	300	400	400	400	400	400	400	300	300	300	300

5. 助成上限

令和6年度生乳委託計画の委託生乳量に応じて、対象者毎に助成対象検体数の上限を設定します。

【数式】 年間委託生乳量 ÷ 365 = n トン

※ n は小数点以下を四捨五入した整数。委託生乳量 365 トン 以下の場合は n = 1。

※ 上限本数 = 60 × n 本。

6. 助成金の支払について

各期の終了後に期間中の実績本数を集計し、会員を通じて助成金をお支払いします。

令和6年度事業計画について

令和6年3月27日開催の臨時総会において決定された
令和6年度事業計画の概要をお知らせします。

基本方針（抜粋）

国内農業においては「みどりの食料システム戦略」により、持続可能な開発目標（SDGs）や環境に配慮した農業となるよう対応が求められています。昨年度、新たに「食品産業向け人権ガイドライン」、「アニマルウェルフェアに関する新たな指針」が策定され、今後は労働環境や労働条件など労働者の人権と家畜福祉の観点から家畜を快適な環境で飼養することに配慮した生産現場となることが求められています。

酪農経営においては長引いたコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻や円安の影響から端を発した世界的な食料、燃料、飼料、生産資材の高騰から生乳生産コストは引き続き高い水準でとどまっています。また、最近では牛肉消費の不振から、F1を中心とした子牛等副産物の価格も下がっています。生乳需給においてはコロナ禍の長期化により牛乳乳製品の消費が落ち込んだことや脱脂粉乳とバター消費の跛行性の違いから脱脂粉乳の在庫が積み上がり、一昨年より生産者・乳業者・国が一体となって乳製品在庫対策に取り組んできました。このような中、生産コスト上昇を補うため複数回にわたって乳価値上げが行われました。値上げの影響から牛乳乳製品の消費が減退しており、今後の生乳需給への影響を注視しなければなりません。値上げによる消費減退のリスクも考えて、今年度も引き続き生産者・乳業者・国が一体となって乳製品在庫対策に取り組み、生乳の需給改善を目指す必要があります。

数年来とても厳しい状況にありましたが、生乳生産基盤の維持、需給調整機能の強化、集送乳の合理化、需要期生産、酪農理解醸成と消費拡大事業による飲用需要の拡大、生乳検査体制の充実、生乳の安全・安心への取組み等は継続して取り組まなければなりません。会員及び関係団体と緊密な連携のもと、酪農家の負託に応えることで組織が強固なものになるよう次の事業を展開します。

1. 販売部門

（1）生乳需給安定・有利販売に向けた生乳生産方針の検討・取り組みの実施

- ① 中央酪農会議が定める令和6年度生乳需給安定化対策を踏まえ、生乳出荷目標数量の進捗管理を行います。
- ② 本会検査所及び会員検査施設にPAGs検査を依頼した生産者に助成を行う乳用牛繁殖改善事業を継続実施します。
- ③ 需要期生産の推進に向けて九州全体での取り組みを検討するとともに、次年度の季節別乳価について検討を進めます。
- ④ Jミルクが実施する酪農乳業産業基盤強化特別対策事業に会員と連携して取り組みます。

（2）「中長期的視点に立った今後の九州生乳販連の方向性について」に基づく適切な生乳受託販売体制の整備

畜安法や農林水産省が令和4年に取りまとめた「生乳の適正取引推進ガイドライン」等を踏まえ、本会・会員等が適切な生乳受託販売事業を実施できるよう、ルール検討・整備等を行います。

（3）業務推進計画に基づく生乳流通体制合理化の推進

- ① 令和3年度に作成した業務推進計画について、会員・輸送事業者と進捗確認および定期的な協議を行います。
- ② CSの統廃合や県域を越える集送乳路線の見直しを検討し、生乳流通体制の合理化に向けて取り組みます。
- ③ 受託・販売乳量確定業務の集約に向け、業務の合理化と九州統一の方法の検討を進めます。

（4）非常時における集送乳事業継続体制の構築

令和2年度に作成した停電時の対応計画を基に、生産者・会員・輸送会社・乳業者の現状を再確認する調査を行います。

(5) 九州産生乳の安定的な需要確保に向けた酪農理解醸成・消費拡大対策事業の実施

- ① 九州の酪農に対する継続的な支持獲得・定着に向け、九州の酪農の現状を生活者に訴求する施策を展開します。
- ② 酪農理解醸成・牛乳消費拡大に向けたイベントを実施します。
- ③ 九州産牛乳・乳製品の幅広い需要拡大に向け、令和5年度で初めて実施した「九州ミルク料理コンクール」を、より効果的な方法を検討したうえで継続実施します。

(6) 乳代精算

- ① 生乳受託販売に係る経費の控除、乳代の算定・乳代精算の業務については「生乳の受託販売・乳代精算及び生乳受託販売事業実施に伴う集送乳経費等の控除に係る要領」に基づき実施します。
- ② 本会の販売経費は表1のとおりとします。

(7) 季節別乳価調整率

需要期における生産対策を図るため、本年度は別に定める季節別乳価実施要領に基づき、以下の乳価調整率を実施します。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調整率	94	94	100	110	110	114	105	100	93	93	93	93

(8) 加工原料乳生産者補給金等

令和6年度の加工原料乳生産者補給金は、加工原料乳(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向け) 認定数量1kg当たり8.92円、集送乳調整金2.68円であり、交付時期は生乳受託販売委員会で協議後、理事会で決定します。

(9) 補助事業

- ① 加工原料乳生産者経営安定対策事業
- ② 生乳流通体制合理化推進事業
- ③ 生乳需要基盤確保事業
- ④ 国産チーズ生産奨励事業
- ⑤ 生乳流通改善緊急事業
- ⑥ 脱脂粉乳需給改善緊急事業

2. 検査部門

(1) 各種検査の実施

- ① 乳質向上対策実施要領に従い個人配分検査を実施します。
- ② 乳用牛群検定普及定着化事業に伴う会員から依頼された牛群検定検査を実施します。また、FAO(脂肪酸組成)の測定を継続して実施します。
- ③ 生乳取引に係るローリー乳の検査を実施します。
- ④ 高品質生乳生産のため会員から依頼された指導検査、依頼検査を実施します。
- ⑤ 生乳生産基盤強化のためPAGs検査を実施します。

表1 本会の販売経費

区 分	項 目		経費の額		令和6年度計画	
生乳受託販売に伴い必要となる経費	販売手数料		生乳受託販売代金の0.3%		0.391円/kg	
	集送乳経費	送乳経費	総額	実費	総額	4.234円/kg
			需要者負担	需要者負担額	需要者負担	0.050円/kg
			生産者負担	実費－需要者負担額	生産者負担	4.184円/kg
		集乳経費	実費		2.705円/kg	
		CS冷却費	実費		1.146円/kg	
	検査経費		生乳受託販売数量1kgあたり0.12円		0.120円/kg	

(2) 検査実施本数（表 2）

(3) 配分・取引に係る生乳検査料

生乳検査料は受託乳量に対し 0.12 円/kgとします。

(4) 生乳検査精度維持

- ① 検査の精度管理については生乳検査認証マニュアルに基づき実施します。
- ② 九州域内CS・乳業者の生乳検査施設とのクロスチェックを実施します。
- ③ 保守用部品製造終了時期となる検査機器について、検査業務に支障が生じないように計画的に更新いたします。

(5) 生乳の安全・安心確保

- ① 飼養衛生管理基準となる生乳生産管理マニュアルに従って、目的と判断基準を遵守し、良質な生乳生産と安全・安心の確保のため、会員の協力のもと飼養衛生管理の指導に努めます。
- ② 生乳出荷伝票の活用や生乳廃棄事故の事例共有等により乳質事故の未然・再発防止を図ります。また、生乳生産管理チェックシートの重点記帳項目の記帳徹底や重点指導項目の適正管理などにより生乳の安全・安心の確保に努めます。
- ③ 動物用医薬品に含まれる抗菌性物質等が基準値を超えて生乳に残留することがないように、生産者の意識強化や巡回指導での検証強化を図ります。

- ④ 集乳業の対象となる会員CSごとに、HACCPに沿って策定した衛生管理計画の内容を遵守しながら、各会員と連携しCS施設内での生乳の取扱い、標準的な検査手法と検査コストの適正化等を図ります。

(6) ローリー乗務員研修

ローリー乗務員の研修会を開催し、集乳技術と知識の向上を図り、適切な衛生管理と正しい集乳作業手順の普及啓発に努めます。

(7) 会員・乳業者の技術研修

会員と乳業者の担当者を対象に生乳検査技術研修会を開催し、基礎知識の習得と技術の平準化及びトラブル発生時の対応について研修を行います。

(8) 生乳品質共励会の開催

生産者の乳質改善意欲向上のため令和6年度生乳品質共励会を開催し、成績が優秀であった生産者を表彰します。

(9) シャーレの供給

抗菌性物質検査用のシャーレの供給を継続します。

3. 総務部門

(1) 効率的な業務運営

自己資本の強化を図るため目的積立金を可能な限り増額し、内部留保の充実を図ります。また、資金

表2 検査実施本数

検査種目	R5 年度実績 (見込み)	R6 年度計画	前年比
配分細菌検査	25,023 本	24,270 本	97.0%
配分成分検査	25,755 本	24,510 本	95.2%
牛群検定検査	890,108 本	854,500 本	96.0%
取引検査	42,853 本	41,140 本	96.0%
指導検査	6,652 本	6,650 本	100.0%
依頼検査	17,251 本	17,250 本	100.0%
PAGs 検査	4,320 本	5,000 本	115.7%
総検査本数	1,011,962 本	973,320 本	96.2%

運用の効率化と債権管理の強化に努め、本会財務の健全化を図ります。

(2) 諸法令改正への対応

業務運営に係る諸法令の改正に対応するため、必要に応じて本会諸規程の改正を行います。

(3) コンプライアンス態勢の推進

法令・定款・規程等の遵守を基本にしたコンプライアンスの推進に取り組みます。また、役職員のコンプライアンスへの意識向上に向けた研修会などの取り組みを実施します。

(4) 個人情報の適切な取り扱い

本会が保有する個人情報について、各部門における取得・保存及び利用の状況を精査し、必要に応じて保存方法・アクセス権限等の見直しを行います。

(5) 職員の処遇と教育研修

職員の処遇については人事考課実施要領に基づき行います。また、職員としての知識および資質の向上を図るため計画的な職員教育を実施し、関係機関・

団体や外部の研修会等に積極的に参加します。

(6) 事業継続計画の検証

災害発生時・感染症発生時の業務継続のために作成した事業継続計画を検証します。

(7) 酪農理解醸成活動の推進

会員及び教育機関と連携して「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的とした酪農教育ファーム活動を実施します。また、令和5年度に作成した小学校低学年向けの教材を児童及び教育関係者へ配布し、酪農への興味関心を促すことで、酪農教育ファーム事業の周知ならびに酪農理解醸成活動の推進に努めます。

(8) 情報の提供

定期的に発行している本会会報やホームページにより充実した情報の提供に努めます。

令和6年度用途別販売計画

(単位：トン)

期別	用 途 別 内 訳					
	飲用牛乳等向け	はっ酵乳等向け	脱脂粉乳・バター等向け	クリーム等向け	チーズ向け	合計
第1四半期	103,210	21,520	13,050	7,540	280	145,600
第2四半期	94,030	22,040	5,410	6,445	275	128,200
第3四半期	94,080	21,020	11,760	7,460	280	134,600
第4四半期	94,990	19,400	20,440	6,495	275	141,600
合計	386,310	83,980	50,660	27,940	1,110	550,000

令和6年度損益計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額
販売事業収益	4,374,797
販売事業費用	4,199,012
販売事業利益	175,785
検査事業収益	113,155
検査事業費用	29,889
検査事業利益	83,266
事業総利益	259,051

(単位：千円)

科 目	金 額
一般管理費計	214,989
事業利益	44,062
事業外収益	970,666
事業外費用	968,080
事業外損益	2,586
経常利益	46,648
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期利益	46,648

国産チーズ生産奨励事業について

畜産業振興事業の1つである「国産乳製品等競争力強化対策事業」のうちの「国産チーズ生産奨励事業」について、令和5年度に引き続き令和6年度も本会が事業実施主体となって実施していくこととなりましたので、事業内容についてお知らせします。

1. 概要

「総合的な TPP 等関連政策大綱」に即し、国産チーズの競争力強化及び品質向上等を図るため、酪農家によるチーズ原料乳の高品質化を確保するための飼養管理の高度化や乳質管理に取組む費用の一部を支援します。

2. 事業の実施期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日

3. 事業の要件等

(1) 事業対象者

事業対象者は、本会を通じて生乳の出荷・販売を行う生産者であって、次に掲げる基本となる取組のうち7項目以上に取り組んでいる生産者になります。

- ①乳房炎予防のための畜舎の環境改善
- ②飼養管理の高度化
- ③飼料分析の実施
- ④記帳・記録の実施
- ⑤搾乳機器の点検・整備
- ⑥チーズ向け生乳の品質向上
- ⑦抗生物質の迅速検査
- ⑧その他生乳の品質向上対策

(2) 乳質基準

この事業の対象となる生乳は、次の乳質基準をすべて満たした生乳になります。

項目	無脂乳固形分率	乳脂肪率	細菌数	体細胞数
基準	8.3%以上	3.5%以上	10万/ml以下	30万/ml以下

(3) 奨励金の単価

この事業の奨励金の単価は次のとおりです。

- ①基本となる取組を実施する場合：6円/kg
 - ②次の上乗せとなる取組を実施する場合：
 - ①+5円/kg
 - ア. ホルスタイン種以外の乳用種飼養
 - イ. 有機畜産の認定
 - ウ. 放牧畜産基準の認証又は放牧を要件として生産される生乳の販売
 - エ. 非遺伝子組み換え飼料の給与を要件として生産される生乳の販売
 - ③チーズ向け生乳を増加させた場合※：事業対象者毎の増加分に対し+20円/kg
- ※本会の令和5年度チーズ向け取引数量が令和2年度～令和4年度の平均取引数量を上回った場合

(4) 生乳検査体制

本会検査所が毎月2回行う配分検査結果を用います。

(5) 交付対象数量

奨励金の交付対象となる生乳は、当該月に事業対象者が生産した生乳のうち、(4)による検査結果の単純平均値が(2)のすべての項目の乳質基準を満たしている場合、当該月の受託販売数量をこの事業の対象とし、これを12ヵ月分集積した数量に、本会の令和6年度総取引数量（公共除く）のうちチーズ向け生乳の取引数量の比率を乗じた数量になります。

※各取組の詳細や今後のスケジュールについては所属の農協にお問い合わせ下さい。

令和6年能登半島地震に係る義援金のご報告

能登半島地震発生から4ヶ月が経過し、長期に渡る断水で酪農経営への影響が深刻化しています。

被災地を支援するため中央酪農会議が義援金を募集し、九州からは役職員・会員・関係団体義援金として2,237,692円を拠出いたしました。

被災された皆様のご安全と被災地の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

生乳需給安定化対策について

1. 令和5年度生乳出荷数量実績について

令和5年度生乳需給安定化対策において、設定した生乳出荷目標数量に対する会員別の出荷数量実績は表1のとおりです。

表1 令和5年度生乳出荷数量実績

(単位: kg)

	令和4年度	令和5年度			
	実績 A	目標数量 B	実績 C	前年比 D = C/A	達成率 E = C/B
ふくおか県酪協	65,457,528	63,142,343	59,761,388	91.3%	94.6%
佐賀県農協	13,222,972	13,157,946	11,700,653	88.5%	88.9%
長崎県酪連	32,382,161	32,981,607	30,914,755	95.5%	93.7%
熊本県酪連	260,752,492	260,103,560	250,906,585	96.2%	96.5%
大分県酪協	68,429,379	68,786,301	67,041,068	98.0%	97.5%
宮崎県経済連	70,611,964	72,219,296	67,504,910	95.6%	93.5%
鹿児島県酪協	64,517,712	70,063,955	64,572,438	100.1%	92.2%
九州合計	575,374,208	580,455,008	552,401,797	96.0%	95.2%

2. 令和6年度生乳需給安定化対策について

(1) 基本的な考え方

令和6年度の全国の生乳生産量は、年度の前半には前年水準まで回復するものの、その後は後継牛頭数の減少に伴い前年を下回る見通しとなっております。また、飲用需要は、経済活動の正常化により増加することが期待される一方で、相次ぐ食料品の値上げにより消費者の購買意識が変化し、低価格帯の商品へ需要がシフトする傾向が見られています。乳製品については、バターは一定の需要が見込まれるが、脱脂粉乳との需要の差が大きく、生乳需給上の課題となることが想定されます。

このように生乳需給の見通しが不透明である状況を踏まえ、3年間を単位とする中期対策は設定せず、令和6年度は単年度での需給安定化対策として取り組むものとしします。

(2) 生乳出荷目標数量

本会は、畜産経営の安定に関する法律に基づき作成する令和6年度年間販売計画の数量（公共の数量等を含む）を、また各会員は、生産者からの積み上げにより作成し本会へ提出した令和6年度生乳委託計画の数量を、令和6年度の生乳出荷目標数量とします。

なお、期中において、進捗状況を踏まえた見込み数量の把握を行うために、6月、9月、1月の計3回見直しを実施いたしますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

表2 令和6年度生乳出荷目標数量

(単位: kg)

	目標数量	前年比
ふくおか県酪協	59,035,360	98.8%
佐賀県農協	11,890,754	101.6%
長崎県酪連	32,601,111	105.5%
熊本県酪連	252,426,945	100.6%
大分県酪協	67,553,450	100.8%
宮崎県経済連	71,065,345	105.3%
鹿児島県酪協	64,002,164	99.1%
九州合計	558,575,129	101.1%

(3) 需給変動への対応

①国の支援を受けて生産者・乳業者により実施する「乳製品在庫対策」へ抛出します。

②生乳需給の繁閑差が拡大する中、「需要期生産の推進」に努めます。

令和5年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量：t、前年比：％、単価：円/kg)

用途		1月			2月			3月			第4四半期計			年度計		
		数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	21,889	96.0	133.880	20,971	102.0	133.921	21,348	93.2	133.332	64,208	96.9	133.712	280,575	96.6	130.723
	学校給食向け	3,447	105.3		3,955	98.5		2,408	87.0		9,810	97.6		40,413	101.1	
	域外飲用向け	6,395	96.3		7,315	101.7		7,264	93.6		20,974	97.1		65,071	84.3	
	飲用牛乳等向け計	31,731	97.0		32,241	101.5		31,020	92.8		94,992	97.0		386,059	94.7	
	はっ酵乳等向け	6,553	99.8		6,449	105.0		7,097	100.3		20,100	101.6		84,683	100.7	
	飲用等向け合計	38,284	97.5		38,690	102.0		38,117	94.1		115,091	97.8		470,742	95.7	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	6,974	101.9	91.347	5,438	107.0	91.706	9,830	120.5	90.809	22,242	110.7	91.209	52,486	97.4	91.254
	クリーム等向け	2,171	97.9		1,944	97.9		2,506	95.6		6,622	97.0		28,067	97.9	
	チーズ向け	93	109.2		93	99.0		94	96.9		280	101.4		1,107	97.5	
	特定乳製品向け計	9,238	101.0		7,476	104.4		12,430	114.3		29,144	107.2		81,660	97.6	
販売乳量合計		47,522	98.1	125.612	46,166	102.4	127.085	50,548	98.4	122.875	144,236	99.5	125.124	552,402	96.0	124.888

支払乳代

(単位 金額：千円、単価：円/kg)

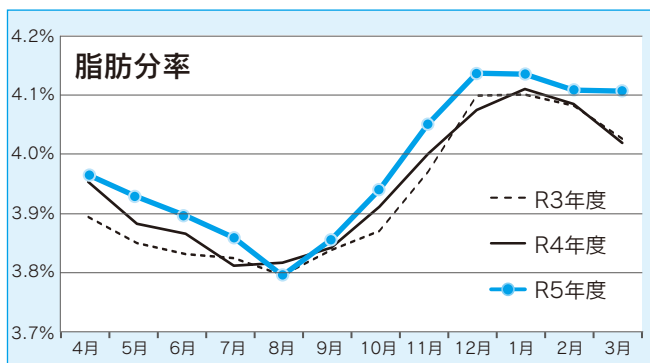
項目	1月		2月		3月		第4四半期計		季節別精算		年度計	
	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価
基本乳代①	5,969,304	125.612	5,866,954	127.085	6,211,069	122.875	18,047,327	125.124	-	-	68,988,547	124.888
脂肪分加算金	59,195	1.246	53,745	1.164	57,816	1.144	170,756	1.184	-	-	519,147	0.940
無脂固形分加算金	56,506	1.189	51,631	1.118	56,870	1.125	165,007	1.144	-	-	563,025	1.019
成分加算金計②	115,702	2.435	105,375	2.283	114,685	2.269	335,762	2.328	-	-	1,082,172	1.959
季節別調整率③	93%	-	93%	-	93%	-	-	-	-	-	-	-
季節別調整金	-417,851	-8.793	-410,686	-8.896	-434,775	-8.601	-1,263,312	-8.759	240,903	0.436	0	0.000
調整後乳代④=①×③	5,551,453	116.819	5,456,268	118.189	5,776,294	114.274	16,784,015	116.365	-	-	68,988,547	124.888
販売手数料	18,255	0.384	17,917	0.388	18,977	0.375	55,149	0.382	-	-	210,212	0.381
生乳検査料	5,703	0.120	5,540	0.120	6,066	0.120	17,308	0.120	-	-	66,288	0.120
送乳経費	184,194	3.876	186,596	4.042	198,759	3.932	569,550	3.949	-	-	2,134,367	3.864
需要者負担額(運賃補填)	-2,073	-0.044	-2,389	-0.052	-1,494	-0.030	-5,956	-0.041	-	-	-25,007	-0.045
CS・冷却費	50,825	1.069	47,728	1.034	58,692	1.161	157,245	1.090	-	-	587,039	1.063
集乳経費	116,710	2.456	113,398	2.456	123,046	2.434	353,154	2.448	-	-	1,354,263	2.452
プール費用⑤	373,613	7.862	368,790	7.988	404,047	7.993	1,146,450	7.948	-	-	4,327,162	7.833
差引乳価②+④-⑤	5,293,541	111.392	5,192,853	112.483	5,486,933	108.549	15,973,327	110.745	-	-	65,743,557	119.014

令和 5 年度会員別生乳受託販売数量

(単位：t、%)

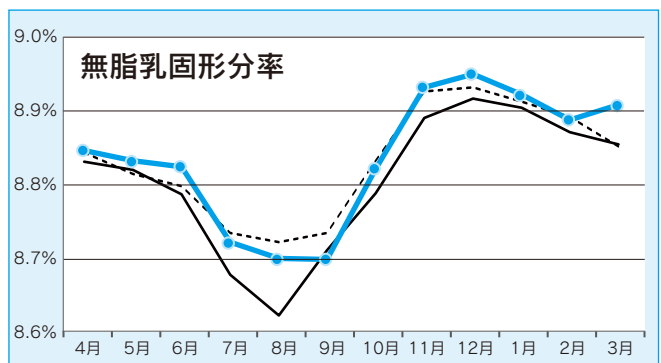
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4-12月計	44,184	89.0	8,575	85.9	22,806	94.3	185,692	95.3	49,360	97.0	49,881	94.6	47,667	98.6	408,166	94.8
1月	5,191	97.2	1,026	95.2	2,692	98.5	21,430	97.4	5,862	99.4	5,817	96.6	5,503	102.6	47,522	98.1
2月	4,975	100.9	1,010	99.2	2,569	100.5	20,821	101.4	5,684	104.7	5,654	101.3	5,452	108.4	46,166	102.4
3月	5,411	97.3	1,089	94.8	2,847	98.2	22,964	98.0	6,134	98.3	6,153	97.8	5,951	102.5	50,548	98.4
合計	59,761	91.3	11,701	88.5	30,915	95.5	250,907	96.2	67,041	98.0	67,505	95.6	64,572	100.1	552,402	96.0

令和 5 年度月別受託生乳検査成績



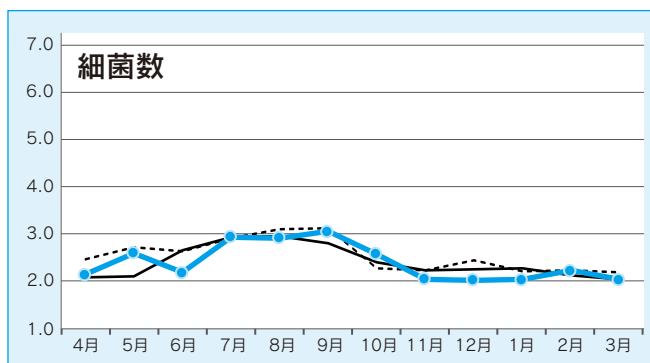
R3年度	3.88	3.84	3.82	3.81	3.78	3.83	3.86	3.96	4.09	4.09	4.07	4.01
R4年度	3.94	3.87	3.85	3.80	3.83	3.90	3.99	4.06	4.10	4.07	4.01	
R5年度	3.95	3.92	3.88	3.85	3.78	3.84	3.93	4.04	4.13	4.12	4.10	4.10

(単位：%)

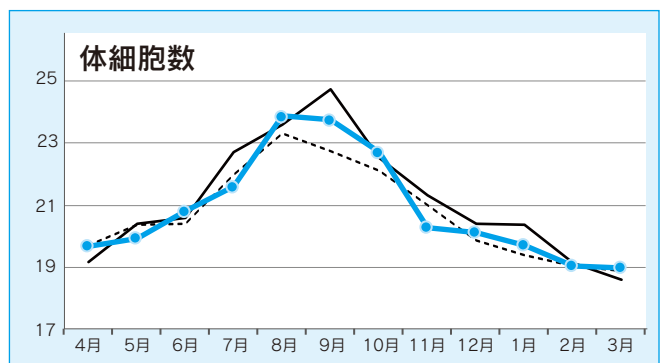


R3年度	8.84	8.81	8.80	8.73	8.72	8.73	8.83	8.93	8.93	8.91	8.89	8.85
R4年度	8.83	8.82	8.79	8.68	8.62	8.71	8.79	8.89	8.92	8.90	8.87	8.85
R5年度	8.85	8.83	8.82	8.72	8.70	8.70	8.82	8.93	8.95	8.92	8.89	8.91

(単位：%)



R3年度	2.5	2.7	2.6	2.9	3.1	3.1	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2
R4年度	2.1	2.1	2.7	2.9	3.0	2.8	2.4	2.2	2.2	2.3	2.1	2.0
R5年度	2.1	2.6	2.2	2.9	2.9	3.1	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2	2.0



R3年度	19.7	20.4	20.4	22.0	23.3	22.7	22.1	21.0	19.9	19.4	19.1	18.9
R4年度	19.2	20.4	20.6	22.7	23.6	24.7	22.5	21.3	20.4	20.4	19.2	18.6
R5年度	19.7	19.9	20.8	21.6	23.9	23.7	22.7	20.3	20.1	19.7	19.1	19.0

～福岡ソフトバンクホークス戦への冠協賛企画～「九州生まれの牛乳スペシャルデー」開催！

5月7日（火）、福岡ソフトバンクホークスの本拠地みずほ PayPay ドーム福岡での公式戦にて、試合を通じて「九州生まれの牛乳」を全面的にPRするイベントを開催し、来場者に広く牛乳消費拡大を訴えました。コンコースでは、模擬牛による搾乳体験や牛乳に関するアンケート調査を実施。親子連れでの搾乳体験が多く見られました。また、会場出口において来場者へチラシ・LL牛乳の無償配布を行い、用意した6,000セットは好評のうちにすべて配り終えました。



中村会長、一球入魂の投球！



両チームへLL牛乳を贈呈

実施日		令和6年5月7日(火)
会場		みずほ PayPay ドーム福岡
対戦カード		福岡ソフトバンクホークス VS 北海道日本ハムファイターズ
入場者数		40,065 人
ゲームタイトル		九州生まれの牛乳スペシャルデー
実施内容	始球式・記念品贈呈	中村会長による始球式、中村会長・清末副会長による両チームへのLL牛乳贈呈
	試合前協賛団体名紹介・インフォメーション	アナウンスによる本会紹介・DJによる「九州生まれの牛乳」のPR
	ドーム内ビジョン・モニターでのCM放映、団体名掲出	CM：(ビジョン) 試合前2回・試合中2回(モニター) 試合中5回 団体名掲出：試合前・リプレイ/選手登場・ラッキー7・花火等
	その他掲出物	横断幕・のぼり・インフォメーションLED・フォトスポット・サークルLED等での団体名掲出
	コンコース内での酪農理解醸成ブース展開	搾乳体験・牛乳アンケート調査
	サンプリング	6,000 セット (九州生まれの牛乳・チラシ)



アンケート回答中 _ φ (´_`)



搾乳体験、上手に搾れるかな？

今回配布した
チラシ



九州各地の牛乳を身近に感じていただくため、店頭で買える 800ml ～ 1,000ml の牛乳と学校給食で提供される牛乳のパッケージを紹介しました。

広告賞を受賞しました

令和5年度酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業で制作・掲出した新聞広告「MILKEEP 牛乳を、まもろう。」が、第61回JAA広告賞～消費者が選んだコンクール～と第91回毎日広告デザイン賞に入賞しました。

この度このような賞を受賞できたことはひとえに皆様のご協力があったのことと一同喜んでおります。今後も生活者に九州の酪農の現状を理解していただけるよう、様々な施策を展開してまいります。

1. 新聞広告について

(1) デザイン



(2) モデル 令和4年度生乳品質共励会最優秀賞者

左：長崎県	山口牧場	令和5年7月29日（土）掲出
中：福岡県	松永牧場	令和5年8月26日（土）掲出
右：大分県	竹内牧場	令和5年8月26日（土）掲出

2. JAA 広告賞について

JAA 広告賞は公益社団法人日本アドバイザーズ協会（Japan Advertisers Association）が主催する広告賞で、広告の発信側が応募した作品を、受け手である消費者が実感に基づいて審査するという特徴があります。第 61 回は、6 部門 879 点の作品の中から 61 点の入賞作品が選出され、本会は新聞広告部門で入賞しました。

3. 毎日広告デザイン賞について

毎日デザイン広告賞は毎日新聞社が主催、経済産業省が後援する広告賞で、新聞社が主催する広告賞のなかでも最も長い歴史があります。第 91 回は合計 715 点の作品の中から入賞作品が選出され、本会は食品部門の準部門賞を受賞しました。



JAA 広告賞表彰式の様子



毎日広告デザイン賞表彰式の様子

令和5年度九州ミルク料理コンクールの結果について

令和6年2月17日（土）に令和5年度九州ミルク料理コンクール実技審査会を開催しました。1次審査で選出された13名、会員推薦枠2名、計15名での審査会となり、厳正なる審査の結果、入賞者は以下のとおりとなりました。

本年度も生活者に牛乳料理レシピを広く活用していただくため、九州ミルク料理コンクールを計画・実施いたします。

■実技審査結果 ※敬称略

ごはん・おかず部門

順位	氏名	料理名	県区分
優勝	金子 颯	自家製のチーズのカルツォーネ	福岡県
2位	金子 亮子	チーズフォンデュ風ミルクパエリア	推薦枠(熊本県)
3位	平井 颯貴	明太クリーム春巻き	熊本県



ごはん・おかず部門 優勝作品

デザート部門

順位	氏名	料理名	県区分
優勝	野村 奈々	不思議なフルーツチヂミ	熊本県
2位	黒木 優梨奈	もちとろフレンチトースト	鹿児島県
3位	久富 瑛康	ふわふわモンブランフレンチトースト	福岡県



デザート部門 優勝作品

SNS・WEBを利用した牛乳消費拡大事業の実施報告について

1～3月に実施した取り組みをご紹介します。

1. ミルク de 応援プレゼントキャンペーン 2024

不需求期の牛乳の販売促進につなげる施策として、1月6日（土）～2月5日（月）にイオン九州及び系列店255店舗で対象の成分無調整牛乳を購入し、応募していただいた方の中から抽選で調理器具等が当たるプレゼントキャンペーンを実施しました。応募は1,645件あり、応募の際には「九州のミルクを応援します!」や「家族みんな牛乳が大好きなので、酪農家さんに感謝しています!」等のコメントをいただきました。

2. 牛乳川柳コンテスト 2024

牛乳・酪農をテーマに1月6日（土）～2月5日（月）にかけ、Xにて川柳コンテストを実施し、応募総数1,605件の中から最優秀賞1名、優秀賞4名、入賞10名を選出しました。最優秀賞に選ばれたのは下記作品です。

卒乳後 母から牛へ バトンパス (kuu♡様)

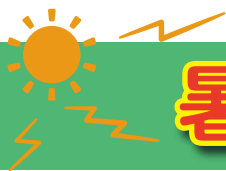
その他の受賞作品は本会のホームページで発表していますので、是非ご覧ください。

6月1日は牛乳の日・6月は牛乳月間です！

九州 LoveMilkClub では、6月の「牛乳月間」に Instagram にて『#牛乳ヒゲチャレンジ』を実施いたします。キャンペーン情報等はホームページ、Facebook、Instagram、Xでも随時紹介していきますので、是非チェックしてみてください。

九販連公式ホームページ・
SNS アカウントは
こちら！

○ホームページ <https://kyuhanren.com/>
○Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
○Instagram <https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>
○X https://twitter.com/love_milk_club



暑熱対策 は早めに!!

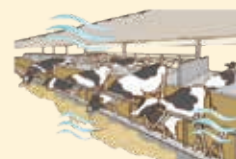


気象庁の予報によると、今年の夏は去年に続き厳しい暑さとなる可能性があります。
早めの暑熱対策で、経営へのダメージを最小限に抑え、暑い夏を乗り越えましょう！

▼ 暑熱対策のポイント ▼

飼養環境

- ▶ 牛舎の窓・戸を開放して舎内の換気
- ▶ すだれ・寒冷紗などを利用して、舎内に入る直射日光を遮る
- ▶ 牛舎内に断熱資材を施したり、屋根に遮熱・断熱塗料の塗装・散水・石灰を塗布するなど牛舎からの輻射熱を抑える
- ▶ 扇風機・換気扇、ダクトファンを利用して風を牛体に当てたり、トンネル換気や、リレー式換気を設置して舎内の温度や湿度の上昇の抑制
- ▶ 噴霧に送風機と併用して牛体を冷却
- ▶ 牛床には清潔な敷料を敷いて、牛の快適性を保つ
- ▶ 飲水設備の改善等をおこない、新鮮な冷水を十分に給水
- ▶ 牛舎環境の緑化による温度上昇の抑制
- ▶ 牛群成績表に表示されている THI 指数の活用（不快指数：temperature humidity index）



飼養管理

- ▶ 乾物摂取量低下の防止
「良質な粗飼料・少量多回給与、涼しい時間帯、飼槽の清掃、エサ寄せ」
- ▶ 飼料給与メニュー
「牛の泌乳状況にあった栄養バランスがとれた飼料給与」
- ▶ 脂肪酸組成データの活用
「デノボ FA(粗飼料由来 / 乳腺細胞で合成)」「デノボ milk(ルーメンの状態)」
「プレフォーム FA(体脂肪や油脂飼料由来)」
- ▶ 発酵熱の抑制
「粗飼料給与割合が多いと咀嚼・反芻が増えて、牛の体内温度の上昇」
- ▶ 放熱対策
「毛刈りや牛体への散水」

